

『製造現場基礎講座』

第3回 講座ダイジェスト

実施日 : 2017年8月4日(金) 10:00-17:00 @京都府中小企業会館

参加人数 : 24名(全員参加)

担当講師 : 学校法人産業能率大学 顯谷先生

§ オリエンテーション

1) 第3会合の講座内容の確認

前回は、「製造現場の活動が決算書に繋がること」をお伝えしました。また生産性の捉え方も確認しました。結局は自分たちが働く時間がお金を生む時間（お客様にとって価値のある時間＝対価としての売上に繋がる）として、効率的に使われているか。この考えを、現場で働くメンバーも意識できているかどうかが重要で、経営者目線を持つということになります。つまり、経営の感覚を現場の感覚と繋げていくことを、皆さんの役割としてお話ししてきました。

2) 前回の課題「自社の生産ロス要因 抽出」

グループの中で、話し合われた内容を「生産ロス→原因として考えられること→改善の方向性」順番で整理しました。そして整理した内容の発表に対して、講師から更なる改善に繋がるコメントをしていきました。その講師からのコメントでは、現状をしっかりと分析するところから現場の活動は始まるということ、そしてその活動をより良くするために、いかに工夫するか考えることが受講者みなさんの使命であり、役割であることをお話ししました。

§ 講座内容 1. 問題を構造化する

このセッションでは、「自社が取り組む問題を明確にする」ために、問題定義や解決に向けた考え方をお伝えしました。

1) 問題とは何か？

テキストP 7-8の図表を見ながら確認していきました。経験値が増えると、ある事象をみた時に、過去の経験を紐付けて判断してしまうことがあります。「本当にそれでいいのか？」という注意が必要です。条件や環境が異なれば、たとえ同じように見える事象でも原因が違うことがあるからです。

また、問題には性質があることもお話ししました。直面する問題、派遣する問題、創造する問題です。現場を引っ張っていく皆さんは、メンバーがこれまで勘と経験で済ませてきてしまったやり方を見直すことができるように、メンバーの気づきを促すような、働きかけをしていく役割があることもお伝えしました。そして、3 現主義（現場、現物、現実）が製造現場の基本であることと、その実践に向けて、事実の観察に基づいて、仮説を立てて捉えようとするをお話ししました。

2) M E C E /なぜなぜ分析

ある問題を捉える観点として、M E C E（もれなく、ダブリ無く）を紹介しました。その理解を深めるために、たとえば製造現場のトラブルを捉える観点として、材料、人、機会、やり方（4 M）で分ける話をしました。ただ、その切り口は状況によって変わることも付け加えて説明しました。何かを明らかにしようとするならば、ものごとを分ける必要があります。

重要なことは、「分けるときには、ある目的があること」を対に考えることなのです。

そして、ここでは「なぜなぜ分析」も触れました。「なぜ」を繰り返すことで、事象の要因を思いつきでなく、論理的に考えながら、漏れなく出していきます。そして、2 度と起きないように再発防止策を導き出すための手段であることをお話しました。また的確な「なぜ」を導き出すために「アバウトな表現」に気をつけること、「主語を必ず入れる」ことなどのポイントも確認しました。推移や状態を正しく捉え、伝えることができないと、本質的な問題の解決にまで至らないのです。問題解決に原理・原則からアプローチすることが重要であり、5 ゲン主義（3 現主義 + 原理・原則）という言葉を確認しました。

3) 問題の発生パターン／ポカヨケ

ここでは、問題が発生するパターンを 3 つ（突発型、慢性型、変動型）の対応ポイントを紹介しました。

ポカヨケについては、パターン（うっかり、思い込み、し忘れ、やらない、意思疎通の不足）を見ながら、こうしたことが起きる原因（作業が標準でない、ながら作業、ペースの乱れなど）も見ていきました。

§ 講座内容 2. 安全衛生活動の意義と重要性

このセッションでは、安全衛生活動の目的、労災の知識について確認しました。

1) 安全を阻害する要因

テキスト P 42－43 は、ポイントを読みながら確認しました。こうしたことが起きる理由として「ルールを守らないこと」、「認知バイアス」について説明しました。人間の癖や特徴を知った上で、現場の人を指導していく必要があるのです。

2) ヒューマンエラーとヒヤリハット、ヒヤリハット活動

製造現場で起こるヒューマンエラーについて、分類と原因（12）を紹介しました。大事なことは、ヒューマンエラーが起こる前の未然に防ぐ活動が重要になります。このヒヤリハット活動についてのポイントを説明しました。

3) 注意環境を作り出す（見える化）を

ここでは、人間の特徴（例：同時に複数の事象に対処できない。忘れやすい。判断が苦手）をご紹介しました。

こうしたことが起きないように、自分の頭の中にあるものを外に出すこと（＝外化）で、意識レベルを上げる必要があります。こうした人間の特徴があることを踏まえた上で、仕掛け・仕組みでカバーすることが、製造現場の活動とも繋がることをお伝えしました。

§ 講座内容 4. 改善シナリオを考える / 事後課題の案内

講座全体を通じて学んだ内容を現場で活かしていただくために「現場改善計画」の作成をお願いしました。記載した内容を上位者と共有をして、コメントをもらってから、8 月 18 日締め切りで提出をお願いしました。尚、提出いただいた計画書に、講師コメントを添えて、後日、コーディネーターから返却します。

以上